

認知症の基礎知識とケア

発売中

《全5巻》 

齋藤正彦先生の臨床医としての経験と研究者としての分析の集大成ともいえるべきDVD!!

- 認知症のメカニズムからケアまでをCGを駆使して分かり易く解説。
- 高齢者虐待防止法や成年後見制度などの最新の制度・法律を無理なく理解できる。

DVD全5巻 各巻価格 18,900円(本体価格 18,000円) 全5巻セット価格 94,500円(本体価格 90,000円)

■ 監 修：齋藤 正彦 和光病院 院長

■ 制作協力：株式会社メディカルビジョン

■ 製作・著作：丸善株式会社

■ 制作協力：川添 みどり(前・老人病院情報センター 主幹)



認知症の基礎知識とケア



- 監修：齋藤 正彦 和光病院 院長
- 製作・著作：丸善株式会社
- 制作協力：株式会社 メディカルビジョン
- 制作協力：川添 みどり
前・老人病院情報センター 主幹

このDVDは、医療・介護従事者のみならず、認知症の患者さんと接する機会のあるあらゆる方々に、認知症とはどういう病気であるかをご理解いただくことを目的に作成されました。



第1巻：認知症の症状と理解

30分

記憶のメカニズム→中核症状→周辺症状や行動上の問題、という関連を理解し、認知症の患者さんに対する合理的で創造的な援助の基礎を詳説する。

- 認知症とは？ 認知症の症状（中核症状と周辺症状）、記憶のメカニズム、認知症による障害（記憶力障害、実行機能の障害、見当識の障害）

ISBN : 978-4-8395-0005-4 C3847



第2巻：認知症の早期診断と治療

31分

介護される客体でしかなかった認知症の患者さんを、生きる主体として認識し、その人生を支援するには、能力が保たれている早期の段階から患者さんを含めたケアチームを作っていく必要がある。その前提となる早期診断、治療、支援について解説する。

- 早期診断の重要性、認知症の診断、認知症の治療、認知症による生活上の支障

ISBN : 978-4-8395-0006-1 C3847



第3巻：認知症のリハビリテーション

21分

進行した患者さんに対するケアの考え方を精神医学的な視点から学ぶ。なぜ排泄の失敗が増え、それに対していかなる介護が合理的であるかを解説する。

- 認知症のリハビリテーション、記憶の強化（メモリー・トレーニング）

ISBN : 978-4-8395-0007-8 C3847



第4巻：認知症の支援 ~ケアの手がかりと周辺症状への対応~

21分

患者さんが早期診断を受け、自身の生活を可能な限り維持し、家事援助サービスや通所リハビリ等の制度を利用しながらの在宅介護から、やがて施設ケアへと移行するプロセスを追って、その対応の仕方を理解する。

- 日常行動援助の原則、ADLの介助（排泄など）、BPSDへの対応（精神症状や問題行動、徘徊、妄想）

ISBN : 978-4-8395-0008-5 C3847



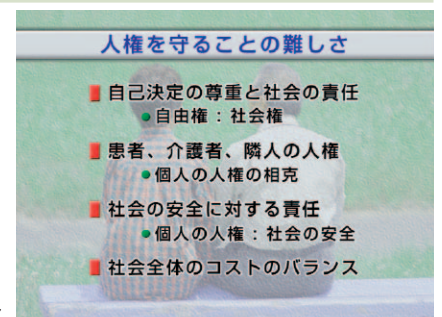
第5巻：人権の擁護と施設のリスク管理

29分

虐待防止法、成年後見制度、個人情報保護法、地域福祉権利擁護事業など、高齢者の権利擁護に関わる法律、制度の概略を理解する。

- 人権擁護の考え方、高齢者虐待防止法、認知症医療における人権擁護 介護サービス利用における人権擁護、経済活動における人権擁護（成年後見制度など）

ISBN : 978-4-8395-0009-2 C3847



監・修・の・こ・と・ば



本格的な高齢社会を迎えたわが国には、すでに170万人を超える認知症の患者さんがいると推計されています。これまで、認知症の患者さんに接するのは、医療機関や福祉機関で働く専門職か、ご家族に限られていましたが、最近では、そうした認知症の専門家だけではなく、例えば金融機関や行政の官庁、あるいは介護保険外の有料老人ホームを経営する民間の企業の担当者が、認知症のお年寄りに対処しなければならぬ、というふうな時代になってまいりました。

このDVDは、医療・介護従事者、介護をしていらっしゃるご家族等に留まらず、認知症の患者さんと接する機会のあるあらゆる方々に、認知症とはどういう病気であるかをご理解いただくことを目的に作成されました。認知症という病気の成因、症状の起こり方と対応の仕方、さらには、高齢者虐待防止法や成年後見制度など認知症の患者さんの人権を守るための法律や法令、医療機関や福祉機関のスタッフの方々が自分自身の身を守るための法令遵守についても詳細に解説しております。認知症の患者さんを支援するためには、「認知症の患者さんの不自由さを理解する」ということが大変重要です。私は、このDVDを通じて、どこでも通用する、認知症の患者さんへの一般的な対応法を示しているわけではありません。人はそれぞれ、病気もそれぞれだからです。私がここで伝えたいことは、目の前にいる人を、まず、一人の人間として理解するよう努め、さらに認知症という病気の原因、症状に関する正しい知識を持てば、患者さんが見せる様々な障害のメカニズムを理解することができ、そうした理解があるなら、それぞれのケースに特異的な対応方法を作り出すことが可能だということです。認知症になっても、人間は自分の頭で考え、自分の足で歩きます。認知症のケアというのは、患者さんを背負って歩くことではなく、認知症の障害を補うことによって、患者さんが、自分の思いを自分で実現していく援助をすることだと思えます。このDVDがそうした援助のヒントを提供することができたら幸いです。

齋藤 正彦 和光病院 院長

■ 齋藤 正彦 略歴 1952年生まれ、1980年東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部付属病院精神神経科にて研修の後、東京都立松沢病院精神科医員、ロンドン大学精神医学研究所研究員等を経て、1991年から98年まで、東京大学医学部精神医学教室講師。1998年6月 慶成会老年学研究所代表を設立、同研究所代表、青梅慶友病院副院長、2000年7月 新宿1丁目クリニック・ユリの木クラブ開設、2005年4月 よみうりランド慶友病院副院長、2006年8月 翠会和光病院顧問、2006年10月より翠会和光病院院長

■ 主な著書、編著 ●「精神医療におけるチームアプローチ」臨床精神医学講座(s.5)(編著) 中山書店 ●「痴呆介護の100箇条」ワールドプランニング ●「親のボケに気づいたら」文芸春秋社

推・薦・の・こ・と・ば

認知症の教育ビデオは少なくない。しかし、患者の視点、家族の視点に十分立脚しながら、医療が出来ることの限界も見据えて簡潔にまとめられているビデオは少ない。特に、リハビリテーションでは、機能の向上を競う当今の様々な療法に根本的に欠落した「認知症患者のおそれ、こわがり」といった患者の視点から見た具体的手順と注意点が十分に説明されており、開始前の心構えの教育に真に大切なエッセンスを提供している。周辺症状への対応も、「周囲の迷惑を減らす」といった精神科医にありがちな薬物療法とは正反対の、環境整備、誘導など、認知症患者の残存機能に配慮した内容で、これによって患者が自信を回復することを第一義にしている。監修者は、著名な成年後見制度の本邦の第一人者であるが、権利擁護や医療者の法的保護に関しても、法は最低限の規定で、医療は法を上まわるモラルと容積を持つものであると結んでいる。自身に厳しいまじめな監修者のビデオで堅苦しいかと思っただ、よくみれば、長年の認知症臨床によって、スッポンのまる鍋から水だけでとれる極上の出汁がでており、視聴後に記憶を失っていくものへの限りないやさしさのみが爽やかな印象として残った。

鳥羽 研二 杏林大学病院 もの忘れセンター長・高齢医学 教授

※本DVDは、公共図書館や学校図書館、病院等の施設でご利用いただけるよう、館外貸出権・無償上映権をクリアしています。VOD(ビデオ・オン・デマンド)でのご利用につきましては、定価の200%の価格で同一事業所内でのご利用が可能です。

発行

丸善出版株式会社 映像メディア部

〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川
TEL.03-6367-6037 FAX.03-6367-6157
<http://pub.maruzen.co.jp/>

お問い合わせ・ご注文はこちらへ